

(10) 九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 8 月)	今回 (平成 14 年 11 月)	
住宅建設	おおむね横ばい	緩やかに減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

電気機械は、集積回路の増加の勢いが緩やかになっていることから全体でもおおむね横ばいとなっているが、高水準で推移している。食料品・たばこは、焼酎などは堅調に推移しているが、清涼飲料やビールにより減少した。化学、鉄鋼は、アジア向け輸出を中心に増加している。一般機械は、半導体製造装置や原動機などが一時的に増加した。輸送機械は、自動車の北米向け輸出が依然として好調で高操業を続けている。



(備考) 平成 14 年 9 月の九州は速報値。

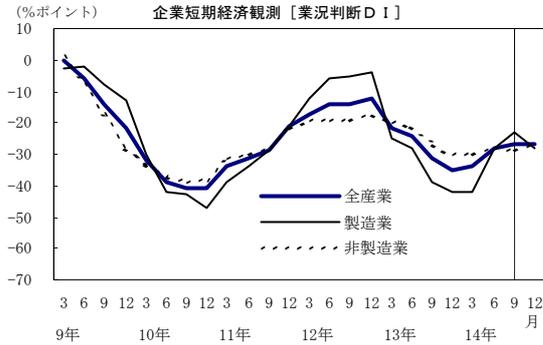
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
電気機械	18.6	18.7	▲1.2	▲1.1	18.6
食料品・たばこ	10.8	2.5	▲2.8	▲1.0	▲8.9
化学	10.2	2.7	2.5	5.1	▲0.1
一般機械	10.2	▲5.4	8.2	9.6	▲2.9
輸送機械	9.5	8.5	2.0	1.2	82.5
鉱工業	100.0	5.0	1.2	0.9	0.2

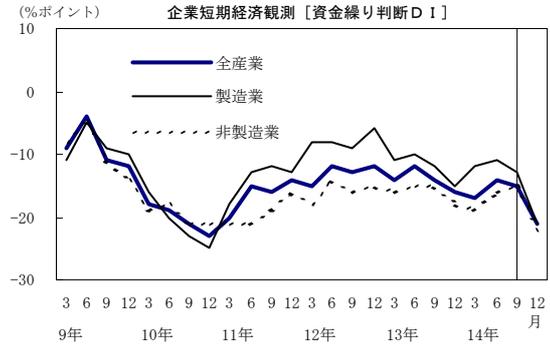
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7～9月期は速報値。

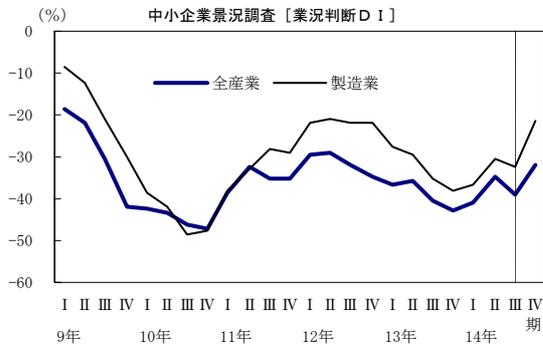
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査〔業況判断DI、資金繰り判断DI〕及び中小企業景況調査〔業況判断DI〕



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。14年IV期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「受注額は増加しているものの、利益確保は非常に厳しい (建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

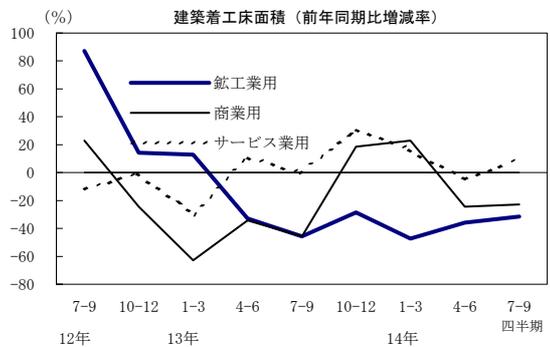
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	▲11.6	▲3.8 (0.9)
製造業	▲27.7	7.2 (0.9)
非製造業	▲3.4	▲8.0 (0.9)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

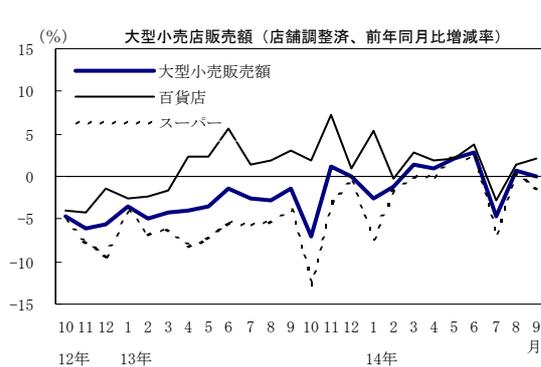
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は中元の早期受注やクリアランスセールの前倒しによる反動などにより前年を下回った。8月は夏物最終クリアランスセールや秋物商材がよく動き、また、9月はプロ野球の優勝セールや催事効果により身の回り品などに動きがみられ前年を上回った。
スーパーは、7月に中元の早期受注の反動から前年を大きく下回り、7～9月期でも前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査（10月調査）〔家計動向関連D I（現状判断）〕

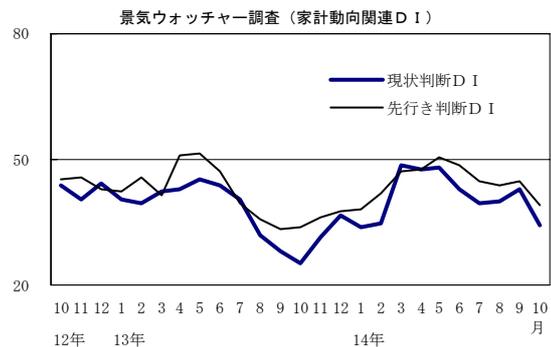
「新型車投入にもかかわらず、販売量が前年に比べてさほど伸びていない（乗用車販売店）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



(前年同月比増減率、単位：%)

	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲1.8	▲0.8	2.0	▲1.6
百貨店	2.9	2.9	2.5	▲0.2
スーパー	▲5.2	▲3.5	1.5	▲2.6
乗用車	2.9	0.0	5.6	5.4
景気ウォッチャー	31.1	39.0	46.2	40.7

- (備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。

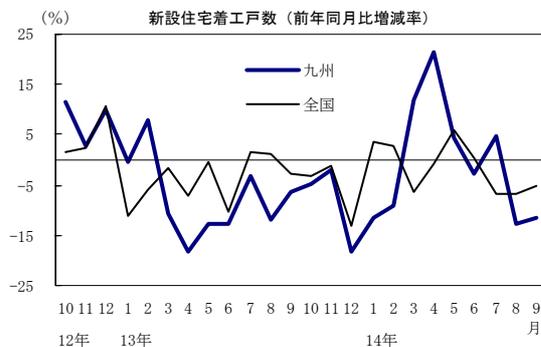


(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家と分譲を中心に、基調としては緩やかに減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を上回っている。

14年度累計では0.9%増加したが、7～9月期では11.8%減少した。

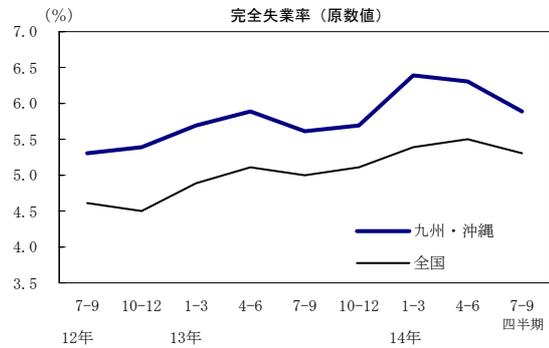
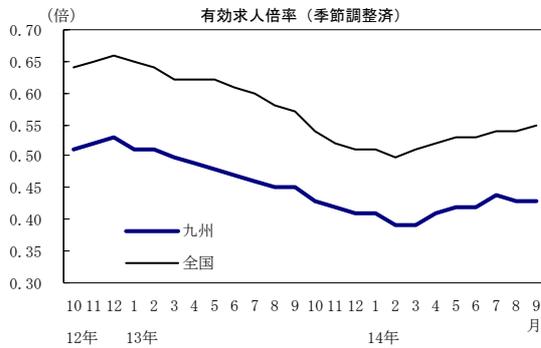


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ横ばいで推移している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

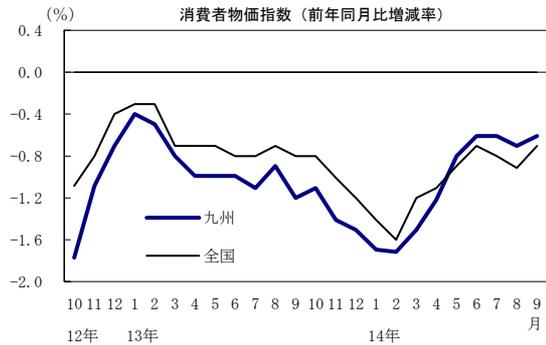
「製造業を中心に若干の改善の動きが見られるが、その主流は請負業務、派遣事業等の求人である (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数	523	411	422	402	168
(前年比)	18.6	0.7	▲0.2	▲14.6	▲13.4
負債総額	4,949	1,403	3,178	1,326	1,380
(前年比)	340.1	▲71.2	192.6	▲31.6	58.4



○ 景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・爆発力のあるヒット商品が見当たらず、あっても限られた世代だけに売れるので継続性がない。売上に関して一過性のものであり、継続した伸びを示さない (百貨店)。

<先行き>

- ・大手造船所の事故の影響で、100社以上ある下請企業など、これから年末にかけていろいろな面で影響が出てくる (観光型ホテル)。

